

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/10 （7/3との比較） 今後の見通し （※4）	7/10 （7/3との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	0.55% （▲0.01）	78.66円 （▲0.83%）	-0.9% 2020年1Q	0.25%	発表された住宅着工件数が市場予想を上回ったほか、雇用者数が前月比で大きく増加する結果。政府が2020年度の財政赤字が過去最大の水準になると発表、カナダドルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	景況感指数や製造業売上高などが発表予定。また金融政策決定会合が予定されており、市場は金利を据え置くと予想。特段の波乱材料が見当たらない中、債券・為替市場はともに比較的狭いレンジ内での動きが続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.11% （+0.08）	20.08円 （▲0.76%）	-0.3% 2020年1Q	2.25%	発表された小売売上高は市場予想を上回り、前月比で大幅に改善する結果。ボルソナロ大統領が新型コロナウイルスに感染したことが発表され、政治的混乱が懸念される中、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。大統領自身の新型コロナウイルス感染を受け、今後の政策対応の動きに注目が集まる中、ブラジルレアルは引き続き値動きの激しい展開が続くと予想。
	Ba2	 金利低下		 景気鈍化	 利下げ局面		
メキシコ 	BBB+	4.88% （+0.08）	4.76円 （▲0.69%）	-1.4% 2020年1Q	5.00%	発表されたCPI（消費者物価指数）は市場予想を上回ったものの、鉱工業生産が低水準であった前月からさらに悪化する結果。同国経済の回復感が見えない中、メキシコペソは対円で下落。国債利回りは上昇。	登録雇用創出合計などが発表予定。世界的に新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念が広がる中、メキシコペソは短期的に方向感に欠ける展開を予想。債券市場は一進一退の展開を予想。
	Baa1	 金利低下		 景気鈍化	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/10 （7/3との比較）	7/10 （7/3との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAAu	<b>0.86%</b> （▲0.05）	<b>74.30円</b> （▲0.42%）	<b>+1.4%</b> 2020年1Q	<b>0.25%</b>	中銀は市場予想通り、政策金利を据え置き。ロウ中銀総裁は豪州経済にかなりの不透明感があり、4-6月期が大幅なマイナス成長になるとの見方を示す中、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	雇用統計などが発表予定。中銀総裁が前週に、インフレ率が持続的に目標値である2~3%に達する確信が持てるまでは利上げしないと表明。債券・為替市場ともに現在の水準を挟んだ値動きが続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	<b>0.97%</b> （+0.02）	<b>70.28円</b> （+0.08%）	<b>-0.2%</b> 2020年1Q	<b>0.25%</b>	発表された住宅価格の上昇率が前月比で鈍化した一方、食料品価格が前月比で上昇、企業景況感も前月比でマイナス幅を縮小する結果。ニュージーランドドルは前週比で上昇。国債利回りは小幅上昇。	住宅売上高やCPI、製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。「香港国家安全維持法」をめぐる、今後の中国との関係について目が離せない中、債券・為替市場ともに一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	<b>0.62%</b> （▲0.06）	<b>11.33円</b> （▲0.18%）	<b>+1.1%</b> 2020年1Q	<b>0.00%</b>	発表されたCPIは市場予想通りであったほか、鉱工業生産の伸びが前月比で鈍化した一方、GDP（国内総生産）が前月比でプラスとなる結果。ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	貿易収支などが発表予定。中銀が他の中銀に比ベタカ派寄りではあるものの、当面は利上げの動きが無いと考えられることから、債券・為替市場ともに現在の水準を挟んでの展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/10 （7/3との比較）	7/10 （7/3との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB	4.99% （+0.00）	6.37円 （+0.87%）	-0.1% 2020年1Q	3.75%	発表された消費者信頼感および製造業生産がともに市場予想を下回る結果。世界的に新型コロナウイルスの感染再拡大により、市場がややリスクオフ方向に傾く中、国債利回りは横ばい。ランドは対円で上昇。	鉱物生産量やCPIなどが発表予定。引き続き、欧米など主要国の新型コロナウイルスの感染者数の動向と、経済活動の再開ペースに注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Ba1	 金利横ばい		 景気鈍化	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB	6.35% （▲0.19）	0.74円 （+0.20%）	+3.0% 2020年1Q	4.25%	発表された消費者信頼感指数は前月比で改善する結果。政府の支出を中銀が引き受ける「財政ファイナンス」に合意したと正式に発表が行われる中、インドネシアルピアは対円で上昇。国債利回りは低下。	貿易収支などが発表予定。金融政策決定会合が予定されており、市場は0.25%の利下げを予想。財政ファイナンスの金融市場への影響に注目が集まる中、短期的には債券・為替市場ともに方向感を探る展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気鈍化	 利下げ局面		
インド 	BBB-u	4.85% （▲0.22）	1.42円 （▲1.40%）	+3.1% 2020年1Q	4.00%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。中国政府が中印国境での衝突の再発防止に向け、中印両軍で話し合いを行うことが発表され、緊張緩和への期待が高まる中、インドルピーは対円で下落。国債利回りは低下。	CPIや卸売物価、貿易収支などが発表予定。引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大による同国経済への影響に注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開が続くと予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気鈍化	 利下げ局面		

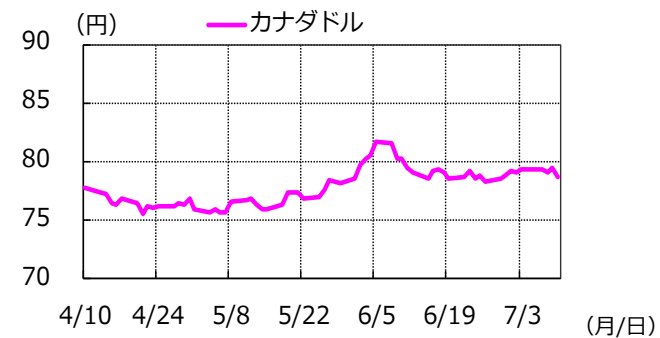
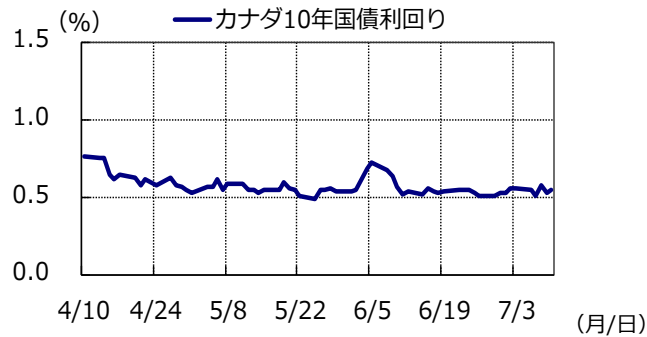
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

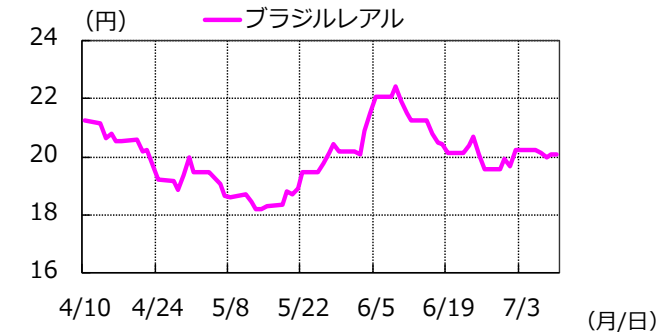
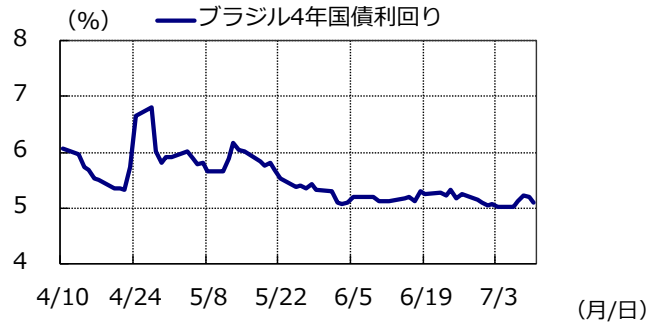
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2020/4/10~2020/7/10

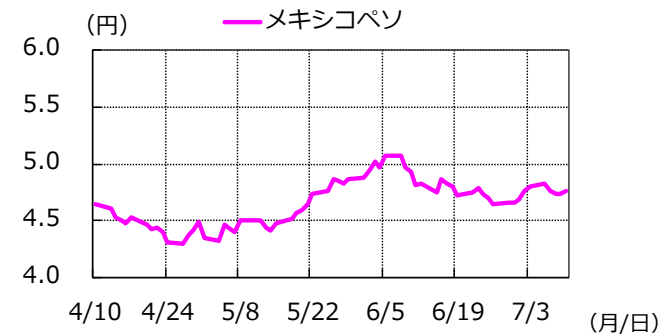
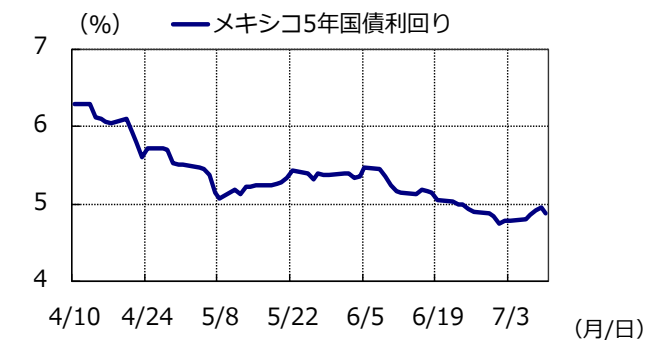
カナダ



ブラジル



メキシコ

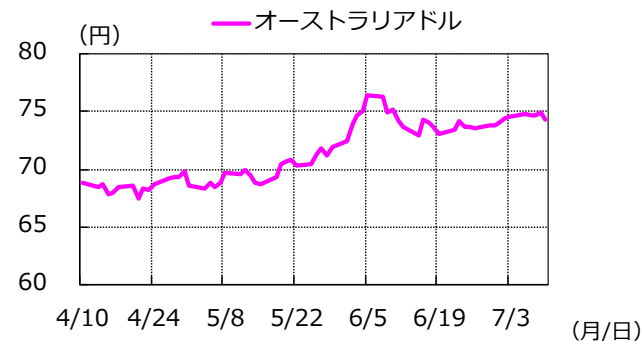
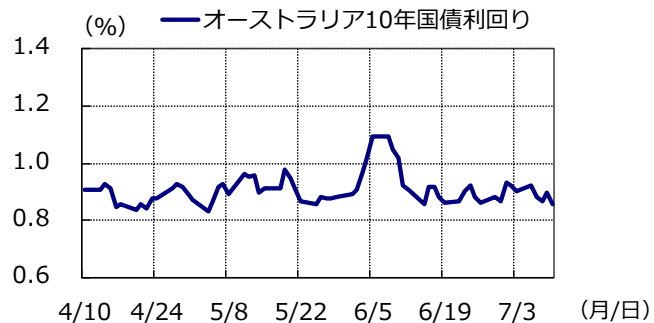


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

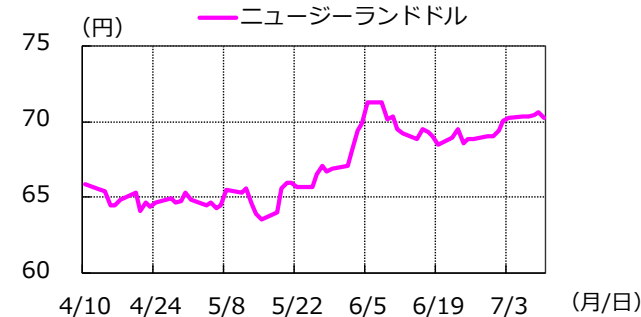
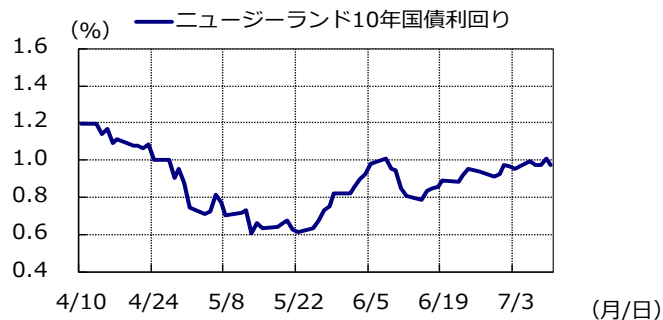
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2020/4/10~2020/7/10

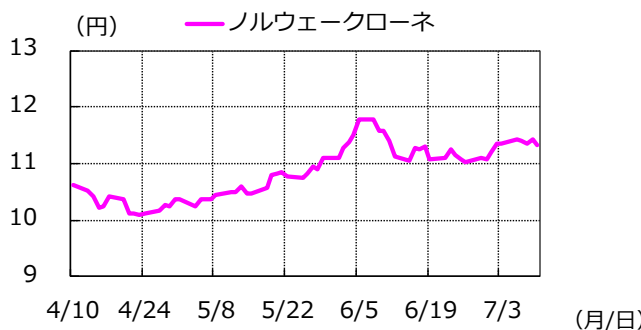
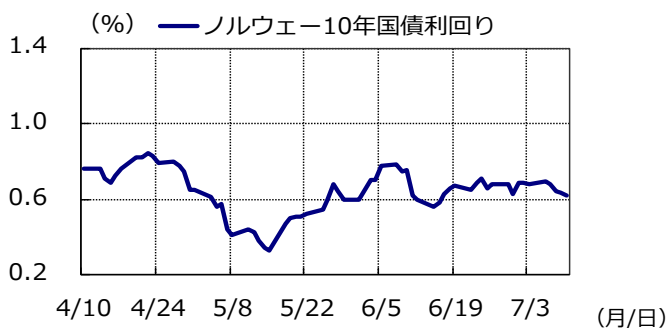
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

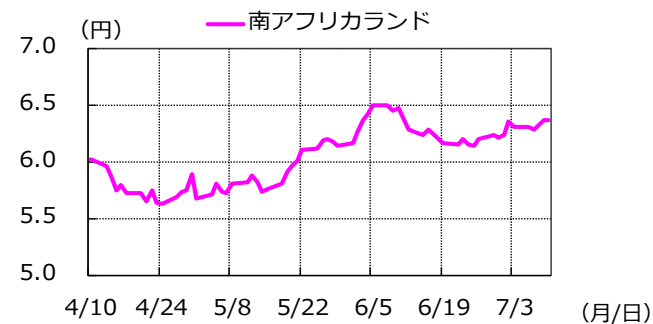
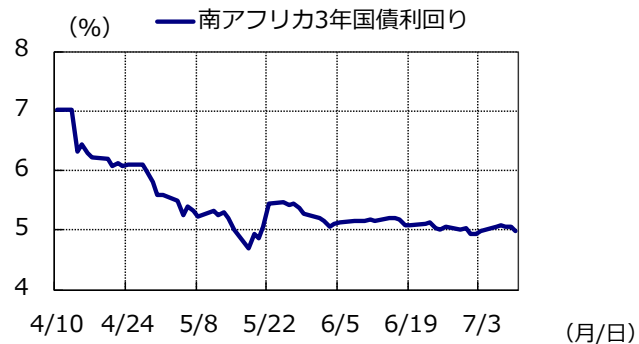


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

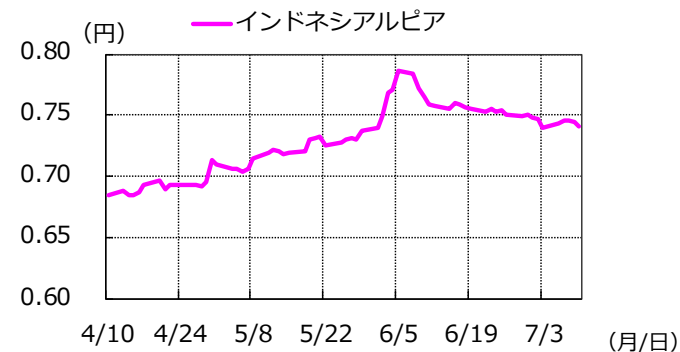
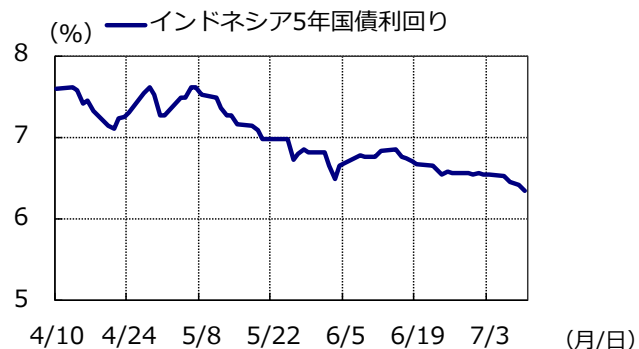
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2020/4/10~2020/7/10

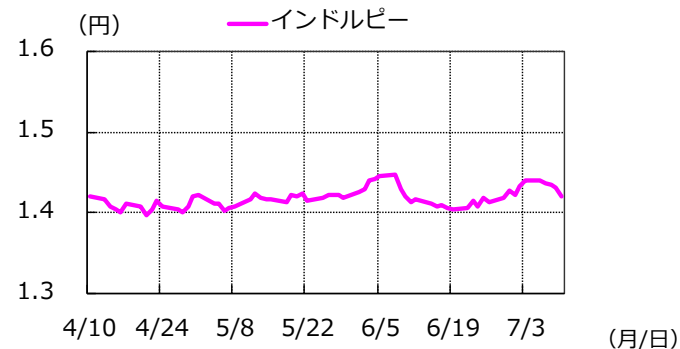
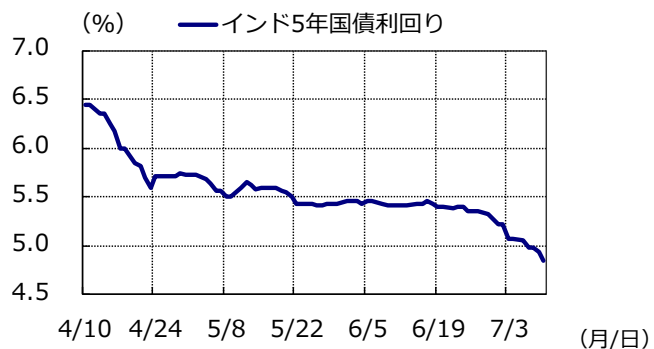
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。



# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。